

兵庫県但東町

日本・モンゴル民族博物館年報

第3号 (平成11年度)

Annual Report of the JAPAN MONGOLIA Folk Museum
No.3 (for the fiscal years of 1999)

あ い さ つ

平成 11 年度の博物館活動を綴った「博物館年報 3」をお届けします。ささやかな報告ではありますが、ご高覧をいただきご批判ご叱責を賜れば幸いです。当館がモンゴルや郷土の歴史・民俗等に関する資料を保存および展示、普及教育などを目的として、オープンして早 4 年が経過しました。この間、地域の皆様をはじめ多くの方々から、変わらぬご支援とご協力をいただいておりますことに対し、厚くお礼申し上げます。

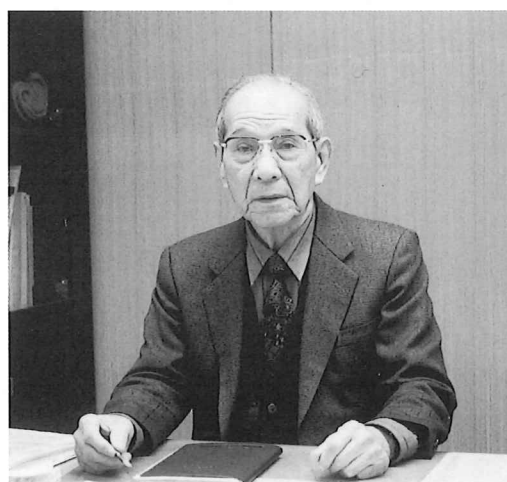
平成 11 年度は、町内の篤志家から博物館正面のモニュメントとしてチンギス・ハーンの騎馬像をご寄贈頂きました。さらに博物館北側敷地に伝承文化体験交流館が竣工し、日本文化である但東を紹介する施設も完成しました。かねてからの懸案事項であった町民俗資料館老朽化に伴う措置として、資料は博物館で大切に保存・公開されるようになりました。地域文化の殿堂として、8 月には開館 2 年 10 カ月で入館者 10 万人を迎えることができました。他博物館との連携では青森県八戸市博物館と資料を交換して企画展示を開催できましたことは、関係者各位のご理解とご協力があればこそ実現できたものと思います。文化財関係では、町内の農村歌舞伎舞台調査を八戸工業大学高島教授に依頼し、貴重な 19 棟が大事に保存されてきたことが分かりました。調査報告書は平成 12 年度事業として計画しています。国際交流関係ではモンゴル国からバヤンホンゴル県の中学教師 1 名、ウランバートル市から中堅画家 1 名を招聘しました。昨年 2 月以降、町国際交流協会共催でモンゴル雪害の支援活動も続けています。

このような博物館活動は、皆様の博物館に対するご理解・ご支援の上に成り立つものであることは言うまでもありません。その意味から、博物館職員一同、親しまれる施設をめざし、より内容の豊かな活動を展開していく所存ですので、一層のご指導とご援助をいただきますようお願い申し上げます。

平成 12 年 4 月

日本・モンゴル民族博物館館長

福 田 芳 郎



目 次

I. 平成11年度概要	4
II. 展覧事業	4
1. 常設展	
2. 企画展	
III. 調査研究事業	7
1. 農村歌舞伎舞台の建築調査	
2. 庚申塔の継続調査	
3. 文化財調査委員会の開催	
IV. 資料収集保存事業	9
1. 寄 贈	
2. 購入資料	
3. 資料の貸出	
4. 資料の燻蒸	
5. 文化財標柱設置	
X. 普及教育事業	11
1. 普及行事	
2. 「トライやるウィーク」の受け入れ	
3. 講師派遣	
4. 出版活動	
5. ホームページの開設	
6. 子ども放送局の設置	
VI. 国際交流事業	15
1. モンゴル国との国際交流	
2. モンゴル国若手芸術家支援活動	
3. モンゴル雪害被害への支援活動	
4. 職員のモンゴル派遣	
5. 民放ラジオによるモンゴル紹介番組	

VII. 伝承文化体験交流館建設事業	16
1. 建設経緯	
2. 事業計画	
3. 展示計画	
4. 体験学習	
VIII. 管理運営	17
1. 組織・職員	
2. 予算の概要（当初予算額）	
3. 入館者利用状況	
4. 施設管理	
5. 博物館協力会	
6. 博物館日誌抄	
7. 来館者の声より抜粋	
8. 施設概要	
9. 利用案内（平成11年度）	
10. 交通案内	
あとがき	30



I. 平成11年度概要

当館の事業を大きく分けると、①博物館事業・②国際交流事業・③文化財保護事業の三つに大別できる。

博物館事業として、常設展や企画展などの展示活動、調査研究活動、資料収集保存活動、普及教育活動などがある。常設展はこれまで部分的に変更してきたが、全体の構成に大きな変化はない。これまでガラスの展示サインであったが、見学者に押されて破損したこともあり、見学者保護のため、木製サインに全部変更した。展示説明パネルも不備な点に関して追加し、見学者に対する情報提供を促した。また、これまで多目的室として使用してきた部屋を、国際理解学習の場として大幅に変更を加えた。モンゴルの民族衣装の試着を男女・子供用と数を増やし、体験学習として見学者に好評であった。また、中国少数民族の民族音楽ビデオを自由に鑑賞できるようにしたり、世界の楽器や世界をテーマにした書籍を揃え、少しでも世界や国際交流に関心を寄せられる環境作りをしてきた。

本年度の企画展は11月までに2回開催した。その後、伝承文化体験交流館の建設工事に伴い、企画展示室を閉鎖した。第9回企画展「モンゴルのチベット仏教」はこれまで公開していない館蔵資料で構成し、モンゴルの基層文化を理解することに努めた。第10回企画展「諸国歴史探検・奥州北部の巻」として青森県の八戸市博物館

から資料を借用して開催することができた。縄文時代早期から江戸時代に至る最新の考古資料を駆使して新しい東北像がイメージできたものと思う。

国際交流ではモンゴルから博物館研修生と画家を各1名招聘した。博物館研修生は町と交流のあるバヤンホンゴル県の中学教師サランゲレル氏を日本文化と日本語研修を兼ねて3ヵ月間（3月～6月）招聘した。モンゴル芸術家支援活動では、一昨年に引き続きモンゴル芸術家連盟所属のウルタナサン氏を招聘した。3ヵ月間の滞在期間中に、モンゴル伝統絵画の大作3点を仕上げ、当館に寄贈頂いた。8月には第4回但東町モンゴル友好使節団に事務局員として金津を派遣し、さらに2月にラジオ番組制作取材協力と博物館運営のモンゴル側との打合せ、雪害調査を目的として14日間派遣した。

文化財保護関係では老朽化している町民俗資料館の移設問題に取り組み、平成11年度事業として「伝承文化体験交流館」が平成12年4月2日に竣工することができた。展示・収蔵・体験の三本柱をコンパクトにまとめたもので、本館の機能を補完するよう設計されている。文化財標柱については毎年3ヵ所ずつ設置しており、今回は町指定の庚申塔6基に標柱設置を計画した。本年度分は3基設置した。また、伝承館建設等の業務に忙殺され、計画的な文化財調査委員会を開催できなかった。

II. 展覧事業

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、A棟のたんとうの森、B棟の東アジアの歴史・チベット仏教、C棟のモンゴル草原の暮らしと文化から構成されている。

- ◎ たんとうの森……人工樹木を配し、平安時代の朽ち木仏像5体を展示
- ◎ 東アジアの歴史……恐竜の卵化石から中国元代までの歴史資料を展示
- ◎ モンゴル草原の暮らしと文化・ゲルと呼ばれる住居を中心に衣食住をテーマ別に展示
- ◎ モンゴル草原のいのり・チベット仏教の寺院を

再現している。

(2) 常設展の手直し

各展示コーナーのサインがガラスであったため、破損して見学者に危害が及ぶことを回避するため展示サインを変更した。平成10年と11年の二年次に渡って実施した工事は本年をもって終了した。新しいサインはいずれも木製の軽いもので制作し、イメージデザインも刷新した。

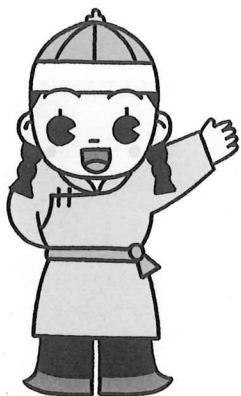
館内のサインとして、ヤギの形をした木製誘導サイン2基を新しく設置した。いずれも雑木を利用したもので、手作りらしさを表に出した。

また、博物館のイメージ作りに役立てようと博物館

キャラクターを募集した。応募総数 319 通の中から厳正な審査の結果、男の子はバートルくん（神戸市 山下好弘様 63 才）と、女の子はウランちゃん（福知山市 西本香子様 8 才）に決定。



（木製誘導サイン）



ウランちゃん

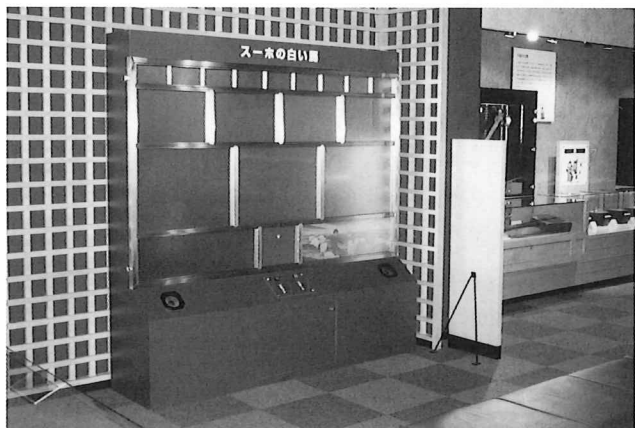


バートルくん

（博物館キャラクター）

（3）常設展の追加

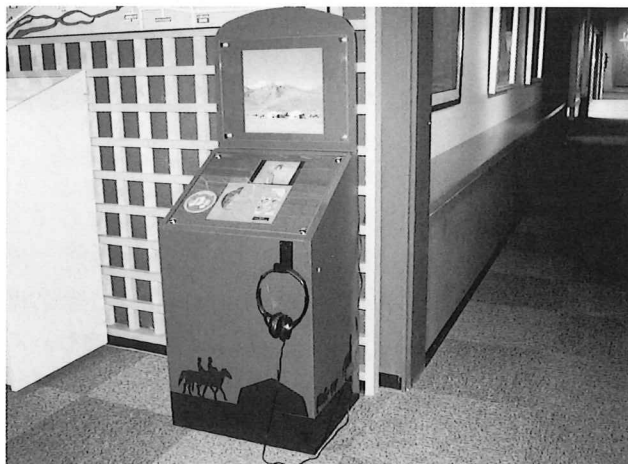
小学校 2 年の国語で取り上げられる馬頭琴の話が出てくるモンゴル民話「スーホの白い馬」についての理



（電動紙芝居）

解促進のため、電動紙芝居を設置した。モンゴル民謡および現代音楽を紹介する CD 視聴機 1 台も同時に設置した。

常設展の中心は牧民の暮らしが中心となっているため、都市部での生活も紹介してほしいという要望に応じて、新コーナーを設置した。モンゴルの首都ウランバートル市内の様子を描いたイラストマップ、現代音楽を紹介する展示を追加した。



（CD 視聴機）

（4）屋外展示の追加

①オボー

博物館入り口脇に、見学者の交通安全を祈願してモンゴル独特のオボーと呼ばれるモニュメント 1 基を設置した。



（オボー）

②チンギス・ハーン騎馬像

町内の篤志家から寄贈頂いたもので、原画をモンゴル人画家ウルタナサン氏が手掛け、インドネシアの芸術家グループに制作依頼した。博物館の記念モニュメントとして見学者に好評を得ている。



(チンギス・ハーン騎馬像)

(5) 職員による解説

当館の職員は現在6名で、見学者の要望に応じて解説補助の仕事を随時対応している。数名から十数名程度の団体については各展示室を通しての解説を行っている。通路が狭いこともあり20数名以上の団体には一般的なガイダンスや各コーナーでの個別的な質問への対応が主体となっている。



(職員による解説風景)

2. 企画展

平成11年度は次の2回(第9回～第10回)の企画展を行った。

(1) 第9回企画展『モンゴルのチベット仏教』

平成11年4月15日～9月23日

146日間(見学者数:16246人)

中央アジアの深奥部に位置しているチベットに伝わった仏教は、その後モンゴルに伝わった。モンゴル文化を理解するうえで、チベット文化の影響は計り知れないものがあり、モンゴルの基層文化を知る手掛かりとしたい。また、常設展の「モンゴル草原のいのり」だけでは不十分であり、常設展と企画展を併用しながら、

未公開の館蔵資料を中心に公開した。

【展示構成】

- ① モンゴルのチベット仏教
- ② 僧侶……祈りと生活
- ③ チベット仏教の経典・仏画
- ④ チベット仏教の法具



(展示風景1)



(展示風景2)

(2) 第10回企画展『諸国歴史探検 奥州北部の巻(八戸市博物館収蔵展)』

平成11年9月25日～11月16日

47日間(見学者数:3931人)

近畿地方から見た「東北地方」のイメージは、同じ国内でありながら正確な情報を持ち合わせているとは限らない。古代の東北地方を「えみし」との争いに力点をおいて語り、まつろわぬ人々として理解してきた経緯がある。しかし、近年の考古学研究の進展により、東北地方に華開いた縄文文化、古墳時代における大陸との関係の示唆、律令体制の実態、および中世から近世における人々の生活の様子がだいに明らかになってきた。そして、これまで認識していたものとは明らかに違う世界が見えてきた。

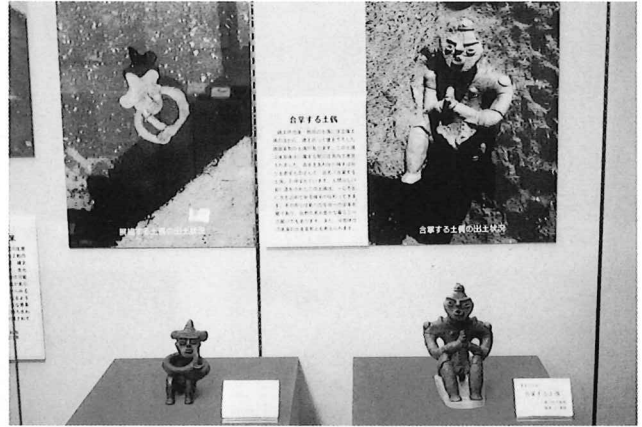
但東町が位置している出石郡はかつて出石藩に属し、八戸藩とは江戸上屋敷が隣同士であり、出石藩のお家騒動「仙石騒動」においては八戸藩とは良好な関係を構築していたことから、諸国歴史探検シリーズの第1回として青森県八戸市を取り上げた。八戸市博物館からは211点におよぶ幅広い資料を借用させて頂いた。



(展示風景1)

【展示構成】

- ① 東北北部に華開いた縄文文化
- ② 古代の蝦夷(えみし)
- ③ 北方鎮護の城「根城」
- ④ 八戸藩2万石



(展示風景2)

Ⅲ. 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられて、最新の情報盛り込んだ展示、質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。今回は調査研究を主目的としたものではなく、緊急調査の範疇に含まれるものではあるが、博物館事業の一環として紹介する。

1. 農村歌舞伎舞台の建築調査

(1) 調査に至る経過

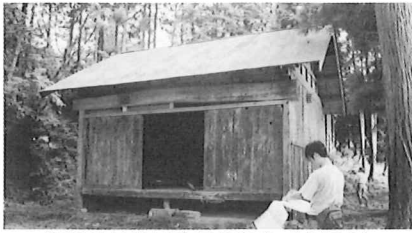
従来から町内には農村歌舞伎舞台が多いと指摘されてきたが、具体的な資料がないままに今日に至っている。兵庫県指定文化財として安牟加神社の農村歌舞伎舞台が唯一指定されているが、詳細な図面等はない。地域での維持管理も厳しい環境におかれ、農村歌舞伎舞台そのものの関心が薄れている。本調査においては現状把握を第一義として、八戸工業大学建築工学科建築歴史意匠室の高島成侑教授に依頼した。

(2) 調査要項

- | | |
|---------|--|
| ① 調査目的 | 農村歌舞伎舞台建築の実態把握 |
| ② 調査期間 | 平成11年8月3日～8月13日 |
| ③ 調査地 | 21カ所(2カ所は大生部兵主神社神楽殿を含む) |
| ④ 調査担当 | 八戸工業大学建築工学科建築歴史意匠研究室
高島成侑教授 戸部 剛宏
滝川 仁 中村 隼人 |
| ⑤ 調査事務局 | (正) 金津匡伸 (副) 大岸勝也 |

(3) 調査の概要

今回の調査では農村歌舞伎舞台19カ所、神楽殿2カ所の計21カ所におよぶ建造物の実測調査を実施した。図面については、各舞台の所在する神社の配置図、舞台の平面図、断面図について記録した。また、壁面には役者が書いたと考えられる墨書の痕跡があり、詳細な観察を行った。次の農村歌舞伎舞台および神楽殿を確認した。



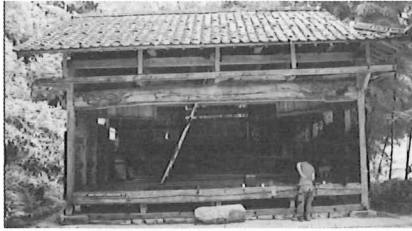
熊野神社農村歌舞伎舞台（大河内）



岡神社農村歌舞伎舞台（唐川）



佐々伎神社農村歌舞伎舞台（佐々木）



新宮神社農村歌舞伎舞台（東中）



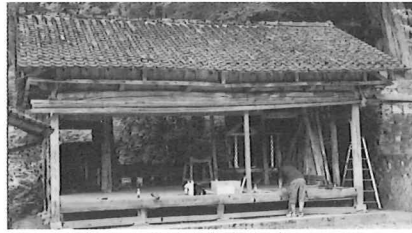
日出神社農村歌舞伎舞台（畑山）



水石公会堂（水石）



大生部兵主神社神楽殿（薬王寺）



赤野神社農村歌舞伎舞台（赤野）



岡神社農村歌舞伎舞台（三原）



日足神社農村歌舞伎舞台（栗尾）



二宮神社農村歌舞伎舞台（後）



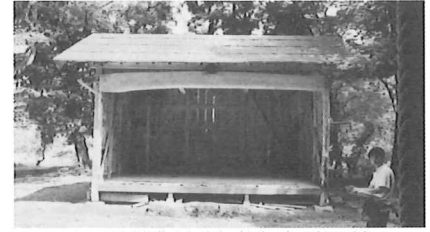
下村神社農村歌舞伎舞台（東里）



権現神社農村歌舞伎舞台（正法寺）



村岡神社農村歌舞伎舞台（薬王寺）



山口神社農村歌舞伎舞台（坂津）



相田の倉庫（相田）



一宮神社農村歌舞伎舞台（久畑）



安牟加神社農村歌舞伎舞台（虫生）



三柱神社農村歌舞伎舞台（畑）



春日神社農村歌舞伎舞台（平田）



大兵部神社旧神楽殿（薬王寺）

(4) まとめ

年代が分かるのは文久元年（1861）の墨書が残る安
牽加神社のみで、それも文久元年以前というものであ
る。全体の舞台の流れは、舞台の形状比率や虹梁にみ
られる彫刻手法等を考慮しながら、ある程度の変遷が
判明してきた。江戸時代後半から末期にかけては約半
数ほどを数え、以降は昭和初期まで続くものと考えら
れる。21棟の舞台や神楽殿が一地域にまとまって現存
していることは全国的な見地からも貴重な例である。
今後は熊野神社、権現神社、三柱神社、日足神社、赤
野神社、日出神社など建築的に優れたものであり、文



(農村歌舞伎舞台調査風景)

化財の指定を図って保存されるよう高島教授から提言
されている。報告書は平成12年度末までに刊行予定で
ある。

2. 庚申塔の継続調査

前年に引き続き庚申塔の調査を継続して実施した。
本町分に関してはほぼ終了していたが、隣接地域と
の関連性から、比較調査の必要性に迫られてきた。兵
庫県出石町、京都府福知山市、夜久野町、久美浜町の
近隣市町について緊急で実施した。但東の文化財シ
リーズ第1集として報告書を刊行した。

3. 文化財調査委員会の開催

本年度は3月23日の1回限りの実施となってい
ました。農村歌舞伎舞台の調査概要、文化財標柱の設
置、史跡亀ヶ城の調査予定について担当者から報告が
あった。また協議事項として、庚申塔報告書、町指定
文化財、視察研修について協議を行った。その後、竣
工間もない伝承文化体験交流館を見学した。

[文化財調査委員会（5名）]

- 会 長：宇治田透玄
- 会長代理：武知 憲男
- 委 員：森脇 博亮 兼井 通夫 小田 博一

IV. 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館の最も基本的な機能であ
る。当館は郷土やモンゴルの自然や歴史・文化に関する
資料を収集するとともに、それぞれの分野でのテーマに
応じ、比較資料として郷土やモンゴルに関する資料をも
収集対象としている。資料の収集は、寄贈・寄託・購入・
採集・交換など、さまざまな方法で行っている。

1. 寄 贈

(1) 寄贈資料（敬称省略）

平成11年

- 5月22日 滋賀県彦根市 ナムジム
毛 皮 1枚
- 5月22日 兵庫県神崎町 足立達也
馬頭琴 1棹
- 8月28日 モンゴル国 ビャンバドルジ国会議員
油彩絵画「アルタン・ハーン」 1点
毛 皮 1枚
- 8月30日 モンゴル国 サランゲレル

- 民族衣装デール 1点
- タルバガン猟具 2点
- 8月30日 モンゴル国 バヤルホンゴル県知事
革製壁掛け 1点
- 10月24日 大阪府豊中市 大塚 隆
プレーリードッグ 1匹
- 11月25日 モンゴル国 ボロルトヤール
モンゴル帽子 1点
- 11月25日 モンゴル国 ウルタナサン
モンゴル切り絵 22点
仏 画 3点
- 平成12年
- 1月27日 栃木県那須町 オオシマフォーラム
モンゴル民話ビデオ 1巻
- 2月15日 但東町 渡辺英一郎
民具生活資料 一式
- 3月31日 但東町 篤志家
チンギス・ハーン騎馬像 一式

(2) 図書寄贈者一覧(順不同・敬称省略)

【個人】

長野 たま	「モンゴル アムト」	1冊
寺嶋謙一郎	「西夏文華嚴経Ⅰ・Ⅱ」	2冊
	「TIBETAN-SANSKRIT DICTIONARY」	2冊
嘉納 秀郎	「嘉納秀郎写真集」	6巻
内田 敏夫	「兵庫の民家と町並み画集」	1冊

【兵庫県内】

兵庫県教育委員会、兵庫県人と自然の博物館、兵庫県現代芸術劇場、姫路市教育委員会、姫路市立美術館、姫路市立水族館、姫路市書写の里美術工芸館、姫路科学館、加古川総合文化センター、高砂市教育センター、明石市立文化博物館、明石市立天文学館、赤穂市教育委員会、赤穂市立歴史博物館、にしわき経緯度地球科学館、龍野市立歴史文化資料館、氷上郡教育委員会、氷上町立植野記念美術館、加東郡教育委員会、加美町教育委員会、福崎町立神崎郡歴史民俗資料館、新宮町教育委員会、上郡町教育委員会、中町教育委員会、播磨町郷土資料館、大屋町教育委員会、朝来町あさご芸術の森美術館、家島町教育委員会、東浦町教育委員会、津名郡町村会埋蔵文化財事務所、生野町教育委員会、北淡町教育委員会、五色町教育委員会、三原郡広域事務組合、西淡町立滝川記念美術館玉青館、日本玩具博物館、辰馬考古資料館、「嶋屋」友の会

【京都府】

京都府立丹後郷土資料館、京都市考古資料館、大山崎町歴史資料館、弥栄町教育委員会、城陽市歴史民俗資料館、大江町教育委員会、日本の鬼の交流博物館、大宮町教育委員会、三和町教育委員会、野田川町教育委員会

【大阪府】

大阪市立自然史博物館、大阪青山歴史文学博物館

【その他】

日本ユネスコ協会連盟、奈良文化財研究所、アイヌ文化振興研究推進機構、北海道立北方民族博物館、上ノ国町教育委員会、八戸市教育委員会、八戸市博物館、村田町教育委員会、村田町歴史みらい館、滋賀県立長浜文化芸術会館、徳島県立博物館、山武考古学研究所

【国外】

JOCV モンゴル海外青年協力隊、ナツァグドルジ(モンゴル国営テレビ局)、サランゲレル(モンゴル国バヤンホンゴル県中学教師)

2. 購入資料

(1) モンゴル鞍(現代)	1点
---------------	----



(八戸市博物館での開催)



(展示風景)

(2) モンゴル甲冑セット(現代)	一式
(3) 画家ウルタナサン氏の水彩画「馬乳酒の祭り」	1点

3. 資料の貸出

(1) 青森県八戸市博物館	194点	平成11年9月25日～11月16日
(2) 大分モンゴル親善協会	2点	平成11年11月17日～11月21日
(3) 綾部市天文館パオ	17点	平成12年3月15日～4月1日

4. 資料の燻蒸

平成11年5月31日に害虫駆除センター・クリーン有限会社にて、全館を対象にフェニトロチオン、ピレスロイド、ダイアシナンの薬剤を使用し、3時間に渡って殺虫・防虫処理を実施した。収蔵庫内は年間3回定期的に殺虫・防虫処理を実施している。

5. 文化財標柱設置

町内に所在している町指定文化財の標柱を平成11年度事業として3カ所設置した。標柱の設置箇所は大河内、佐々木、河本に土地所有者の了解のうえ実施した。



(久畑庚申塔)



(佐田庚申塔)



(赤花庚申塔)

V. 普及教育事業

1. 普及行事

(1) モンゴル紙芝居とモンゴルホーミー

① 4月18日

東京在住の大道芸人の源吾朗氏によるモンゴル紙芝居と、神戸市在住の守田光輝氏のモンゴルホーミーと馬頭琴のコンサートを実施した。

② 11月3日

2回目の源吾朗氏によるモンゴル紙芝居を屋外の芝生で実施した。



(源氏によるモンゴル紙芝居)



(守田氏によるホーミー (倍唱歌唱法))

(2) 馬頭琴コンサート

生のモンゴル文化に触れる企画として、本年度は関西で活躍されているシンバヤル氏を招いて、馬頭琴コンサートや草原での暮らしについて楽しく聞かせていただいた。

10月18日(日) 13:30～14:30

博物館多目的ホール

演奏者:シンバヤル氏 (大阪外国語大学大学院生)



(シンバル氏による馬頭琴演奏)

(3) 川の教室

竹野町在住の自然インストラクター本庄四郎氏を講師として、出石川で水生昆虫の観察を実施した。



(川の教室風景 1)



(川の教室風景 2)

(4) ウィークエンドクラブ

小学校1年から中学校3年までを対象にしたもので、週末に学校を離れてさまざまな体験をしようという事業。平成11年度は4回にわたる年賀状・カレンダー作りを開催した。

会場：博物館創作室

講師：金津（補佐：井上・大岸）

第1回 11月22日（日） 15名

第2回 11月29日（日） 12名

第3回 12月6日（日） 13名

第4回 12月13日（日） 9名

(5) 企画展講演会

平成11年度は2回の企画展を開催したが、第10回企画展「諸国歴史探検・奥州の巻」について、より多くの方に理解を深めていただくために講演会と展示説明会を開催した。

講師：藤田俊雄氏（八戸市博物館学芸員）

「八戸藩南部家と出石藩仙石家との秘話」

とき：平成12年10月24日（日）

場所：博物館多目的ホール

参加：35名



(藤田氏による講演)



(藤田氏による展示解説)

2. 「トライやるウィーク」の受け入れ

兵庫県教育委員会の事業として中学生の地域体験学習「トライやるウィーク」で、生徒の希望に応じて博物館体験を5月31日（月）から6月4日（金）までの5日間受け入れた。本事業は中学2年生が1週間、学校を離れて地域社会での実体験を通して学習する試みとして平成10年度より始まっている。当館では博物館体験として5名を受け入れた。



(解説補助風景1)



(解説補助風景2)

博物館体験は但東・但東北中学校の2年生5名であるが、但東中学校2年（2名）久世明日香、中島麻里、但東北中学校2年（3名）足立健太、今井修一朗、渡辺宏典。職員として大岸勝也、堀勝彦、渡辺律子、浅沼千裕の4名が担当し、開館までの館内清掃・体験農園の整備・受付業務・解説補助業務・電話対応などの接客業と博物館業務について研修した。

【研修生の感想】

◎ 一日目は緊張していましたが、いろんな事をしていくと楽しくなってきました。でも電話に出るときは緊張していました。それと最後の日にお客さんへの案内

も緊張したし、目の悪い方たちだったので説明がむずかしかったです。よい体験になりました。驚いたのは畑仕事でした。私は博物館の仕事に畑仕事があるとは思ってなくてつらかったです。

それからサラさんとお話できる機会をくださってありがとうございました。モンゴルについてよく知ることができてよかったです。この5日間、仕事について多くのことを学びました。本当にありがとうございました。

◎ 一日目は何をしたらいいか分からなくて不安だったのでたくさん迷惑をかけました。けど、ボランティアの人たちが優しく教えてくださったおかげで頑張ろうと思えるようになりました。受付や電話取りなどはとっても緊張してうまくいきませんでした。それにくらべてボランティアの先生たちは、お客様への接し方が上手だと思いました。先生方のおかげで楽しい5日間になりました。これからも健康に気をつけて頑張ってください。またそちらの方に遊びに行かせていただきます。

3. 講師派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣を、月日・担当者・内容・(依頼者)の順に記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

【平成11年度】

- | | | |
|--------|------|----------------------------------|
| 4月23日 | 金津匡伸 | 『小さな博物館の挑戦』
豊岡亀城ライオンズクラブ |
| 5月20日 | 金津匡伸 | 『小さな博物館の挑戦』
全但税務担当者研究会 |
| 5月25日 | 金津匡伸 | 『モンゴルの過去と現在』
いなみ野学園 |
| 7月8日 | 金津匡伸 | 『モンゴルの過去と現在』
小野市広渡公民館 |
| 10月1日 | 金津匡伸 | 『最新モンゴル情報』
神戸市シルバーカレッジ |
| 10月26日 | 金津匡伸 | 『但馬に暮らして世界を視る』
朝来町朝来塾 |
| 12月9日 | 金津匡伸 | 『モンゴルとの交流』
青少年団体育成者国内派遣研修 |
| 2月8日 | 金津匡伸 | 『但馬の過疎に求めるもの』
竹野町商工会 |
| 3月16日 | 渡辺律子 | 『モンゴルとスーホの白い馬』
京都府久美浜町立久美浜小学校 |

- 3月17日 大岸勝也 『モンゴルとスーホの白い馬』
京都府久美浜町立佐濃小学校
- 3月19日 大岸勝也 『モンゴルとスーホの白い馬』
京都府綾部市天文館パオ



(講演会・出前授業)

4. 出版活動

- (1) 館外からの原稿依頼を受けて行った雑誌や機関紙等を記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

- ①「日本・モンゴル民族博物館」 兵庫教育
2000年2月号 No.588

5. ホームページの開設

近年、急速に発展している高度情報化社会にあって、当館と利用者との架け橋として、インターネットを利用して、博物館情報を提供することになった。この活動は、利用者の皆様に親しまれる博物館として、より一層身近に感じていただけるよう、ホームページを8月に開設した。このホームページ開設に当たり、兵庫県国際交流協会からパソコン一式の寄贈を受けている。

ホームページでは、当館が所蔵する資料の紹介、利用案内、企画展や講演会などの催し物情報等を、できる限り最新の情報で提供している。職員による手作りのため満足いただける段階に達していないが、徐々に更新を重ねながら情報を提供していきたい。

博物館公式ホームページ

<http://www2.nkansai.ne.jp/off/monpaku/>

博物館 E-mail アドレス

monpaku@mx.nkansai.ne.jp

6. 子ども放送局の設置

衛星通信を利用した教育情報通信ネットワークシステム（エル・ネット）による子ども放送局をロビーに設置した。受信設備の整備は、文部省の国庫補助事業である「学習活動支援設備整備事業」の対象である。放映は毎月第2・4土曜日のみである。



(エル・ネット設置状況)

VI. 国際交流事業

1. モンゴル国との国際交流

バヤンホンゴル県の中学教師サランゲレルさんを3カ月に渡って、日本語の習得と博物館実習を実施した。平成11年1月にバヤンホンゴル県知事バヤルサイハン氏と駐日モンゴル大使フレルバートル氏、ゲレルチョローン国会議員の3名が但東町を視察した。但東町とバヤンホンゴル県ボグド郡と友好盟約を締結しているが、残念ながらバヤンホンゴル県には日本語のできるスタッフがおらず、今後の友好関係を推進していくうえでも日本語のできる教師を養成したいと強く希望された。



(奥田町長への表敬訪問)

2. モンゴル国若手芸術家支援活動

前年度に引き続き、モンゴルの著名な画家として活躍しているD. ウルタナサン氏を8月末から3ヶ月間招聘し、創作活動を支援した。滞在中に制作した全作品は当館に寄贈いただき、モンゴルの伝統絵画を紹介するコーナーとして展示する計画である。



(ウルタナサン氏による制作風景)

3. モンゴル雪害被害への支援活動

昨年秋からモンゴル国内で雪害による影響が深刻になっており、二回に渡る募金活動を実施した。第一回は、ウランバートル市においてバヤンホンゴル県知事バヤルサイハン氏に直接手渡し、第二回は駐日モンゴル大使館を経由して送金した。

4. 職員のモンゴル派遣

第4回但東町モンゴル友好使節団事務局として8月21日から28日まで金津をモンゴル国ウランバートル市とバヤンホンゴル県に派遣した。松岡教育長を団長とする中学生7名、中学校教員2名を中心に、総勢12名の団員で構成した。



5. 民放ラジオによるモンゴル紹介番組

3月25日、FMcocoloで5時間に渡るモンゴルを紹介する生番組が放送された。番組企画から当館が監修し、現地取材に金津を派遣した。番組はモンゴル国に関する正確な情報提供と但東町が推進してきたモンゴル国との国際交流事業を紹介する機会となった。



Ⅶ. 伝承文化体験交流館建設事業

1. 建設経緯

昭和47年に開設された但東町民俗資料館は、旧赤花小学校を活用した施設で、20数年を経て建物の老朽化や収蔵資料の劣化により、町民の期待に十分こたえることが困難になってきた。現況の民俗資料を今後もより有意義に活用していくためにモンゴル博物館敷地内への建設が望まれ、これまでも決算審査特別委員会報告や議会要望としても指摘されてきたところであった。

「民俗資料館の老朽化に伴い、その展示物と建物の維持管理が困難になっているが、この度オープンした日本・モンゴル民族博物館には本町の民俗資料の展示が少ない状況でもあり、その中に順次、民俗資料館の展示品を整理しながら移し、より多くの人が観覧できるようにすべきである。(平成7年決算審査特別委員会報告)」

「赤花の民俗資料館その展示物の老朽化が進んでいる。早急に展示品の調査を終えて、博物館に移行するべく、施設整備を図られたい。(平成8年決算審査特別委員会報告)」

「赤花の民俗資料を整理し、日本・モンゴル民族博物館の増設部分に移し、貴重な資料を生涯学習の推進に活用されたい。(平成10年議会要望)」

観光地でも歴史的な土地でもなく、重要文化財の収集があるわけでもない本町において、国際的な文化交流における当館の存在はすぐれた文化情報発信基地として有効な機能を有している。さらに体験型の機能を強化することによって、新しい集客力へと結び付けることが可能である。



(伝承文化体験交流館全景)

2. 事業計画

20世紀以降、日本の民俗文化は想像以上に急激な変貌をみせている。日本の国土の7割近くを占める山間部に暮らす人々は、農林業などの山仕事が成り立たず、山里を去らざるを得なくなり、山里の伝統的な民俗文化も消滅寸前となってしまった。一方では、伝統的な民俗文化への回帰が強い気運となってきていることも歪めない。そのひとつとして私たちが暮らす山里の文化を伝えようとしたものが「伝承文化体験交流館」事業である。

施設は展示・保存・学習の機能を持たせ、旧但東町民俗資料館の収蔵資料を有効活用できるよう計画されている。既存施設との運営管理等の問題で、景観や利用者の動線を最大限に考慮して思考すると、博物館に隣接してある町立資母体育館駐車場内が適当である。博物館の付帯施設として位置付けていることから、既存施設の北側民有地に建設し、これまで借地であったのを本事業に併せて土地取得した。

運営の基本方針は現行博物館条例に基づいて運営していくものとする。

3. 展示計画

生涯学習を目的とした地域の博物館づくりの根底にあるものは、地域社会に不可欠な文化分野の発見であると言っても過言ではない。具体的な手法としてハンズ・オンに留意して展示計画を実施した。昭和40年前後の暮らしを再現するため、展示室のメインとして伝統的な民家を再現した。

伝承文化体験交流館の展示は、次の分野に分けている。

●考古展示

奥藤古墳から出土した一括資料、平安時代から鎌倉時代のまとまった経塚資料、中世陶器を展示している。

●歴史展示

出石藩5万8千石を知る資料として地域の古文書や高札、藩関係資料で理解できるよう構成してある。

●民俗展示

人びとは、きびしい環境の中で山里の暮らしを育んできた。この山里の暮らしを、養蚕・織物・農業・衣食住などの資料を中心に構成している。

●無形資料展示

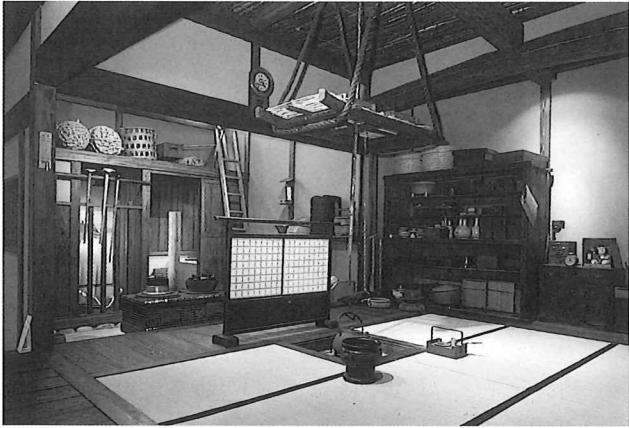
但東の人々の心を「物」ではなく「言葉」で表現したコーナー。この地域で語り伝えられてきた「民話」を3題とりあげている。

●飼育展示

中庭で飼育している草原の生きものプレーリードッグを通路側に移設し、誘客効果を促している。冬期間は冬眠する習性があり、通年で観察希望が多いことから屋内に移設することによって、通年の飼育観察が可能になった。

4. 体験学習

地域における生涯学習の一端を担う施設として、ただ資料の展示ばかりではなく、知的レクリエーションの場としての博物館を目指してきた。多彩な体験学習に対応できるよう心掛けていきたい。



(民家再現1)



(民家再現2)



(民俗展示)



(歴史展示)



(収蔵庫)

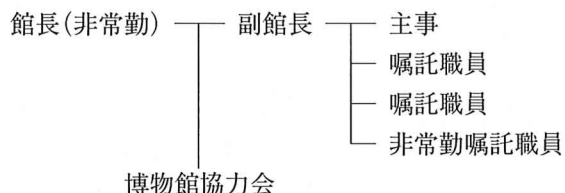


(体験学習室)

VII. 管理運営

1. 組織・職員（平成12年3月31日現在）

(1) 組織



(2) 職員

館長	福田芳郎
副館長	金津匡伸
主事	大岸勝也
非常勤嘱託職員	堀勝彦
嘱託職員	渡辺律子
嘱託職員	浅沼千裕

(3) 事務分掌

福田芳郎	博物館活動事業の推進
金津匡伸	博物館の管理運営、博物館の普及・広報活動、資料の収集・保管、資料の展示（常設・企画）、資料の調査研究、資料の説明、他博物館との連携活動
大岸勝也	博物館活動（講習会、教室、展示会等）、各種団体・機関との連絡調整、公民館との連携活動、博物館協力会、国際交流
堀勝彦	民俗資料・民俗資料館の管理運営
渡辺律子	歳出歳入予算及び経理、博物館の庶務
浅沼千裕	入館者の受付・案内、公文書の経理、館内清掃に関すること

2. 予算の概要（当初予算額）

[博物館費]	151,163千円
①給料（2人）	7,061
②職員手当等	12,546（扶養手当324、調整手当369、通勤手当394、時間外勤務手当1,102、期末手当4,319、勤勉手当789、寒冷地手当132、嘱託手当5,117）
③共済費	1,287
④旅費	1,059
⑤需要費	11,590（消耗品費1,678、印刷製本費1,223、光熱水費8,100、営繕費589）
⑥役務費	1,035

⑦委託料	2,318（警備保障委託費239、電気保安点検料216、資料燻蒸374、浄化槽保守点検料362、下水道委託料158、ガラス清掃委託料184、フロア清掃委託料283、軒先清掃委託料84、自動ドア点検委託料118、シルバー委託料300）
⑧使用料及び賃借料	1,287（使用料1,280、借上料7）
⑨工事請負費	5,471（下水道配管工事費、パネル展示費）
⑩備品購入費	880
⑪負担金	453（県博物館協会10、但馬地域博物館連絡会5、テレビ組合6、下水道分担金432、公課費19）
⑫企画展費	3,700（報償費30、需要費3,270、役務費400）
⑬活動費	2,557（報償費1,960、需要費397、使用料200）
⑭伝承文化体験交流館建設事業費	99,900千円（需要費、委託料、工事請負費、公有財産購入費、備品購入費）

[文化財費] 3,492千円

①文化財調査委員会費	268（報酬148、旅費100、需要費20）
②埋蔵文化財調査費	370（需要費110、委託料260）
③民俗資料館管理費	654（報償費10、需要費376、委託料268）
④文化財調査保存費	2,200（報償費574、旅費108、需要費1,284、備品購入費234）

3. 入館者利用状況

平成8年11月3日に開館してから3年5カ月が経過した。累計で112,297の方に見学して頂いた。

平成11年度の内訳は下記のとおりであるが、利用者数26,722で有料が18,519名、無料が8,203名である。但東町民の博物館利用は3,406名で全体の約8%程度とそれほど多くはない。明石海峡大橋の開通に伴い、5月以降は利用者数も大きく減少することになった。最終的に前年度比13.8%の減少になった。

また、雪の多い但馬というイメージから、通常は一般利用者の冬季における利用率が極端に低くなる傾向にあるが、2月から3月にかけての豪雪によりさらに前年を大きく下回る結果になってしまった。

【平成8年度（開館日：123日）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町民								1,507	464	361	407	646	3,385
一般								2,409	1,052	960	1,173	2,545	8,138
高大								26	28	19	20	159	252
小中								183	37	103	96	367	786
その他								3,000	1	19	63	159	3,242
計								7,125	1,581	1,462	1,759	3,876	15,803
1日平均								297	69	58	73	144	128

【平成9年度（開館日：307日）】

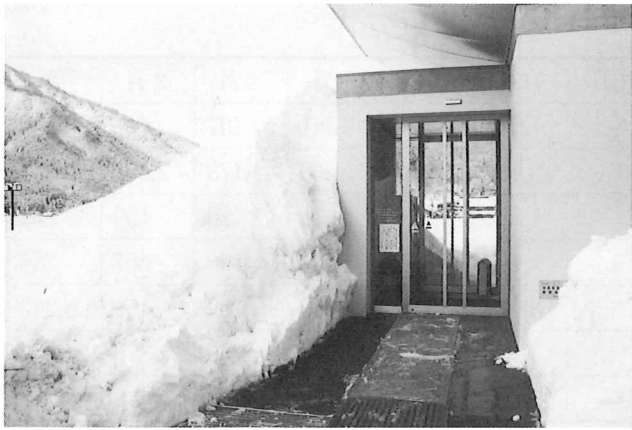
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町民	762	445	404	492	530	259	251	255	240	261	212	337	4,448
一般	4,251	3,262	3,100	1,898	2,882	2,085	2,232	2,736	1,172	833	1,153	1,666	27,270
高大	45	61	33	17	172	38	14	12	6	18	15	145	576
小中	436	418	109	149	544	213	147	102	32	66	39	199	2,454
その他	359	610	245	973	372	173	204	448	96	125	137	248	3,990
計	5,853	4,796	3,891	3,529	4,500	2,768	2,848	3,553	1,546	1,303	1,556	2,595	38,738
1日平均	234	178	150	136	167	106	110	137	67	54	65	96	126

【平成10年度（開館日：307日）】

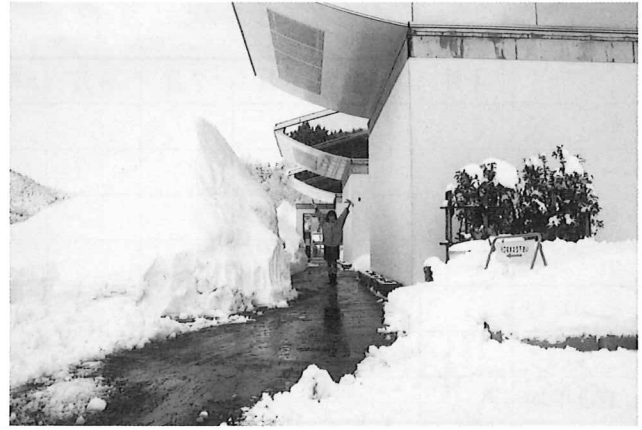
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町民	450	283	263	286	466	318	289	322	223	98	133	255	3,386
一般	4,712	1,719	1,173	1,051	1,607	1,120	1,582	2,271	935	1,727	2,307	1,213	21,417
高大	42	30	11	54	266	97	10	24	7	5	12	73	631
小中	561	152	41	66	322	43	36	65	29	37	33	127	1,512
その他	569	612	252	284	367	490	337	414	122	173	185	283	4,088
計	6,334	2,796	1,740	1,741	3,028	2,068	2,254	3,093	1,316	2,040	2,670	1,951	31,034
1日平均	235	104	67	76	112	83	83	119	57	85	111	75	101

【平成11年度（開館日：308日）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町民	287	277	371	453	499	275	324	267	166	160	139	188	3,406
一般	3,975	1,707	1,149	1,084	1,966	930	1,380	1,526	738	720	664	821	16,660
高大	43	41	15	32	126	11	69	19	9	7	15	22	409
小中	602	190	10	59	280	29	44	41	21	41	38	95	1,450
その他	1,229	418	283	242	706	183	482	340	171	206	221	316	4,797
計	6,136	2,633	1,828	1,870	3,577	1,428	2,299	2,193	1,105	1,134	1,077	1,442	26,722
1日平均	227	98	73	69	132	60	85	84	48	47	43	55	87



(2月の豪雪で埋まった正面玄関)

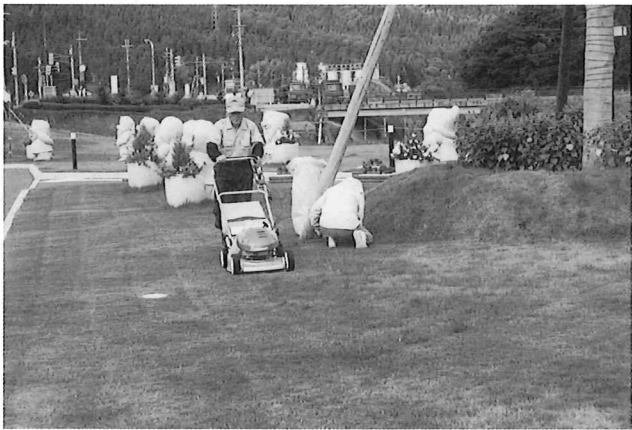


(雪の回廊)

4. 施設管理

(1) 芝生管理

本年より芝生の通年管理を但東町シルバー人材センターに委託した。



(芝刈り風景)

(2) 補修工事

- ①A棟図書コーナーの西側ガラス面より水漏れ（雨漏りと結露）、建設業者にて処理。
- ②C棟東外壁全体に細かなクラックが入り、建物の美観を損ねており、この面のみ再塗装した。

(3) 防火管理者の設置

北但消防本部にて講習を受講させ、本年度より防火管理者（金津）を設置した。

(4) 下水道工事

伝承館の建設工事に伴い、本館下水道のつなぎ込みを実施した。処理槽は砂を入れて埋め戻した。

5. 博物館協力会

博物館協力会は当館が位置する資母地区の住民から「いつまでも美しい建物にしよう」という声上がり、加藤廣己氏と塩川剛三氏の呼びかけで、平成9年2月10日に発足した。平成11年の活動内容は以下のとおり。

◎平成11年役員

(任期：平成11年1月1日～12月31日)

会 長 塩川 剛三

常任幹事 渡辺 毅 早水 宏

幹 事 7名 役 員 7名 顧 問 8名

◎平成11年活動内容

【平成11年度】

2月23日 役員会

4月11日 クリーン作戦、婦人会博物館周辺の清掃

4月25日 如布区役員による博物館芝生の除草作業

7月4日 博物館隣接河川の川狩り、如布区老人会・婦人会による博物館芝生の除草作業

8月1日 如布区役員による博物館芝生の除草作業

10月10日 如布区青年会による如布神楽披露



(如布神楽の披露)

- 10月24日 企画展講演会出席
- 11月3日 3周年記念イベント
- 11月21日 役員会による博物館敷地内の植栽手入れ及び役員会・懇親会

3月22日から11月28日まで延べ50日、博物館前の販売所にて観光案内と物産販売を実施し、ボランティア100人の協力を得た。

6. 博物館日誌抄

- 4月1日 町教育委員会辞令交付式
- 4月2日 在日モンゴル大使館職員およびご家族14名来館



- 4月3日 図書コーナー補修工事、外壁清掃
- 4月9日 日本海新聞取材、文化財標柱工事(2カ所)
- 4月13日 全但バス株式会社バスガイド教習指導4名
- 4月16日 和知町文化財保護委員10名視察
- 4月17日 神戸新聞社論説委員伊良子序氏視察
- 4月18日 神戸新聞社取材
- 4月21日 オフィスクレール取材
- 4月22日 伝承館建設に向けて先進地視察(町議会文教福祉委員会、建設課、教育委員会)
- 4月23日 神戸新聞社取材
- 4月24日 久美浜町高龍中学校5名校外研修
- 4月25日 氷上町国際交流協会足立一夫氏他1名視察、博物館協会除草作業
- 4月27日 モンゴル研修生サランゲレル資母小学校見学
- 4月30日 FMジャングル取材、資母小学校3年生31名校外研修
- 5月2日 室津町立海駅館「嶋屋」友の会事務局長柏山泰訓氏取材
- 5月5日 子供の日につき、小中学生無料
- 5月9日 氷上町氷上東小学校61名校外研修(自然学校)

- 5月12日 モンゴル国外務大臣歓迎レセプション出席(金津)
- 5月14日 但馬地域博物館連絡会出席(渡辺)
- 5月20日 全但税務担当者研究会34名視察
- 5月22日 滋賀県立大学小貫雅男教授、ナムジム教授、伊藤恵子氏来館
- 5月31日 出石警察署岩田敬祐所長着任挨拶、トライやるウィーク7名受入、館内の燻蒸処理
- 6月1日 村田町歴史みらい館学芸員佐藤裕史氏視察、伝承館工事打合せ
- 6月2日 モンゴル研修生サランゲレル帰国
- 6月3日 毎日新聞取材、日高町教育委員会トライやるウィーク4名受入
- 6月4日 資母小学校2年生22名校外研修
- 6月5日 関西学院大学片寄俊秀教授他5名来館
- 6月6日 体験農園でわいわい広場41名サツマイモ植栽作業
- 6月10日 防火管理者講習参加(金津～11日)
- 6月14日 伝承館工事打合せ
- 6月18日 県博物館協会総会出席(金津、浅沼)
- 6月19日 地域ボランティアによる環境整備作業
- 6月27日 兵庫県西部医師会16名視察
- 6月28日 朝日新聞取材
- 6月29日 新日本海新聞取材、植栽工事(C棟東側、中庭)
- 6月30日 伝承館工事打合せ
- 7月4日 如布区による除草作業
- 7月6日 兵庫県町村会大東農八次長視察、湯村温泉寿荘12名社員研修
- 7月12日 資母保育園33名園外研修、生野町民生児童委員協議会23名視察、伝承館工事打合せ
- 7月16日 関西学院大学片寄ゼミ7名視察
- 7月19日 出石グランド時を奏でるホテル2名視察
- 7月22日 日高町文化財審議委員12名視察
- 7月23日 但馬地区ココロクラブ出席(渡辺、浅沼)
- 7月28日 就日女子大学賈鍾壽助教授視察
- 8月3日 八戸工業大学高島ゼミによる農村歌舞伎舞台調査(～13日)
- 8月5日 峰山町少年少女合唱団71名視察研修
- 8月6日 第16回全国城郭セミナー和田山大会出席(金津)
- 8月13日 毎日新聞・産経新聞取材、閉館時間を午後8時まで延長(～15日)
- 8月17日 ラジオ関西山口一史社長他1名視察入館者10万人達成(伊丹市・早川明様)
- 8月19日 但馬小学校長会12名視察、奈良女子大学広瀬和雄教授他12名視察



(入館者 10 万人目の早川様へ記念品贈呈)

- 8 月 20 日 資母小学校 13 名職員研修、京都市消防局警防部 2 名視察
- 8 月 22 日 英語指導助手アンドリュー・プリスコー氏着任挨拶
- 8 月 26 日 日高町議会文教福祉委員会 7 名視察
- 8 月 28 日 モンゴル国芸術連盟 D、ウルタナサン氏をモンゴル招聘事業として受入 (3 カ月間)
- 9 月 7 日 伝承文化体験交流館工事入札
- 9 月 9 日 毎日新聞・読売新聞取材
- 9 月 14 日 伝承館工事打合せ
- 9 月 15 日 毎日放送取材
- 9 月 17 日 八戸工業大学高島成侑教授農村歌舞伎舞台追加調査 (～ 18 日)
八戸市博物館より資料を借用、資料貸し出し作業 (～ 18 日)
- 9 月 18 日 兵庫県立近代美術館 7 名視察
- 9 月 21 日 八戸市博物館へ展示指導 (金津～ 23 日)
- 9 月 24 日 企画展展示替え、北海道上ノ国シンポジウム参加 (金津～ 27 日)
- 9 月 28 日 全国子どもプラン第 1 回但馬地区推進委員会出席 (金津)
- 10 月 3 日 八田小学校 20 名職員研修
- 10 月 6 日 企画展展示替え
- 10 月 8 日 マザー牧場主催「大モンゴル展の日」出席 (館長、大岸)
- 10 月 12 日 日本の鬼の交流博物館村上政市長来館
- 10 月 14 日 神戸新聞取材
- 10 月 17 日 赤穂市文化振興財団亀谷武司事務局長来館
- 10 月 19 日 中国帰国日本人孤児 22 名視察研修、子午線交流協議会取材
兵庫県議会事務局取材、神戸新聞取材
- 10 月 21 日 植村直己冒険館五十嵐信二次長他 1 名視察
- 10 月 24 日 企画展講演会開催 (講師：八戸市博物館学芸員藤田俊雄氏)
- 10 月 25 日 高砂市文化財審議委員会 7 名視察

- 11 月 2 日 町教育委員 4 名視察
- 11 月 3 日 源吾朗モンゴル紙芝居開催
- 11 月 9 日 毎日放送取材
- 11 月 10 日 県博物館協会学芸担当者会議出席 (金津)
- 11 月 15 日 八戸市博物館出張 (浅沼～ 17 日)
- 11 月 17 日 大分モンゴル親善協会 2 名来館 (資料引き取り)
- 11 月 20 日 滋賀県立水口文化会館井上氏・長浜文化会館竹村氏来館
八戸市博物館借用資料梱包作業 (小笠原喜範氏立会い)
- 11 月 21 日 大分モンゴル親善協会岡洋一郎会長来館 (資料返却)
- 11 月 25 日 関西学院大学片寄俊秀教授・加藤晃規教授・久野武教授・オンクオック・ライ助教授来館
竹村健一氏来館、和知町教育委員会榎本藤雄次長他 17 名視察



(竹村健一氏の来館)

- 11 月 26 日 但馬博物館連絡会 7 名視察、モンゴル国芸術連盟 D、ウルタナサン氏帰国
- 11 月 29 日 八戸工業大学高島成侑教授農村歌舞伎舞台追加調査
- 12 月 3 日 出石町弘道小学校 2 年生 46 名校外研修、伝承館工事打合せ
- 12 月 5 日 版画教室
- 12 月 6 日 伝承文化交流体験館上棟式
- 12 月 7 日 野田川町教育委員会大木育彦教育長他 3 名視察
- 12 月 9 日 兵庫県青少年本部田中諭専務理事他 8 名視察
- 12 月 11 日 版画教室
- 12 月 12 日 版画教室
- 12 月 13 日 伝承館工事打合せ
- 12 月 27 日 モンゴル情報誌しゃがあ西村幹也氏他 1 名来館

1月7日 伝承館工事打合せ、屋外展示オボー制作（～16日）



（オボー制作風景）

1月8日 毎日新聞取材
 1月14日 伝承館工事打合せ、綾部市天文館パオ塩見信吾係長他1名視察
 1月15日 村岡町職員互助会23名視察
 1月16日 加藤九祚氏来館
 1月21日 香川県志度町教育委員7名視察
 1月25日 資母小学校6年生6名校外研修
 1月27日 兵庫県子ども会連合会11名視察
 1月28日 文化財防火パトロール実施（北但消防出石分所同行）
 2月1日 吉見小学校6年生19名校外研修
 2月2日 伝承館工事打合せ
 2月8日 伝承館工事打合せ
 2月10日 兵庫県豊岡財務事務所平田清己総務課長他2名視察
 2月11日 モンゴル旅行会社バット・ツアーズ U・バットバヤル氏視察
 2月17日 宝塚市議会3名視察
 2月19日 宮津ロータリクラブ2名視察
 2月20日 モンゴル国へ出張（金津～3月5日）
 2月22日 伝承館工事打合せ
 2月23日 県博物館協会資料取扱い研修参加（浅沼）
 2月25日 豪雪のため、重機で除雪作業
 3月2日 総務庁兵庫行政監察事務所堺治久課長視察
 全国子どもプラン第2回但馬地区推進委員会出席（大岸）
 3月4日 但馬ふるさとづくり協会26名視察
 3月7日 兵庫県博物館協会出席（渡辺）、伝承館工事打合せ
 3月13日 峰山町五箇小学校2年生17名校外研修、野田川町山田小学校2年生32名校外研修
 3月14日 伝承文化交流体験館消防・土木事務所検査

3月16日 久美浜町久美浜小学校へ職員派遣（渡辺）
 3月17日 久美浜町佐濃小学校へ職員派遣（大岸）、神戸新聞・毎日新聞取材
 3月19日 モンゴルレストラン「モンゴルオルゴ」スーチンドロン氏視察
 3月20日 FM放送生出演のため大阪出張（金津）
 3月21日 神戸新聞取材
 3月24日 町役場新職員6名研修
 3月28日 神戸新聞・産経新聞・日本海新聞取材、伝承館工事打合せ
 4月2日 伝承文化体験交流館の竣工



（竣工式のテープカット）

7. 来館者の声より抜粋

以下は平成11年度の来館者の声を抜粋したもので、博物館職員としては真摯に受け止め今後の運営に生かしたいと考えている。

- ◎ 4月10日 三重県上野市（女性）
 モンゴルは知らないことの方が多かったので勉強になりました。
- ◎ 4月11日 京都府久美浜町（女性）
 企画展示の断層模型はとてもおもしろかった。ビデオギャラリーもゆっくりできて、ほかの博物館にはないゆったりしたムードがいいですね。
- ◎ 4月20日 大阪市阿倍野区（女性）
 閑静な地にゆとりのある博物館。ゆったりとした気持ちで館内を見ました。
- ◎ 5月2日 京都府夜久野町（女性）
 前からあるのは知っていたし、よくこの道を通るのですが、今日初めて入りました。子供たちもすごく関心をもって、私自身も勉強になりました。とても良かったです。今度は子供会でも利用したいと思います。
- ◎ 5月4日 兵庫県黒田庄町（女性）
 国立民族学博物館で、実際モンゴル音楽を耳にして

本当に感動しました。時々、せっかく衣装も自由に着ていいのならイベント的に遊びや馬頭琴、モデル写真会などあれば楽しいですね。子供もスーホの白い馬で必ず勉強するので、馬頭琴はとても興味を持っているようです。

◎ 6月1日 東京都渋谷区 (男性)

小生モンゴルにはいささか縁のある者ですが、日本にこのような博物館があったことは驚きであると同時に、大変喜ばしいことと思います。これからももっと博物館の存在を県外にもPRして、もっともっと多くの方が利用されることを望みます。尚、もう少し現代の生活や経済についても展示があると良いと思います。東京にあるモンゴル大使館の協力をもっと進められてはいかがでしょうか。出版物の「モンゴルの過去と現在」、大変良いと思います。

◎ 6月29日 兵庫県福崎町 (女性)

資料を集められるのが大変だったと思いますが、勉強ができました。今後もいろいろ増やして頂けたらと思います。

◎ 7月19日 兵庫県高砂市 (女性)

以前からチベットに興味があり、モンゴルと共通点があり面白かったです。楽器やゲルの中が体験できて良かったです。

◎ 7月20日 神戸市須磨区 (女性)

大変興味深くおもしろかったです。家の中に入れるのが良かった。すごくいい博物館なので、もっと宣伝したらいいと思うのですが。

◎ 8月10日 大阪府茨木市 (男性)

モンゴルの服を着てみるのができ大変良かった。モンゴルの歌、音楽なども聞くことができるとうれしい。映像資料もあるとさらに良いと思う。

◎ 8月12日 京都市 (女性)

モンゴルの自然を除いてはモンゴルの様子がほとんど分かりました。図書室が併設されており、展示を見やすく帰るのではなく、ゆったりとモンゴルを楽しめました。

◎ 8月16日 京都市西京区 (男性)

中1の長男が夏休みの自由研究でモンゴルをテーマにしたレポート作成のため来館しました。

◎ 8月19日 京都市京田辺市 (女性)

民族衣装を着ることができてとても良かった。見るだけでなく体験できるのが嬉しかった。

◎ 8月28日 兵庫県加西市 (男性)

日用品、楽器、祭器など、ただ陳列するだけでなく、どのような意味を持ち、どのように使われるかなど、詳しい説明があれば尚良かったです。

◎ 9月18日 兵庫県社町 (女性)

チベット仏教の展示室にあったお賽銭はどうされるのでしょうか。初めて来ましたが勉強になりました。手で触れる民族衣装のコーナーなどもあればなお良かったと思います。

◎ 9月19日 大阪府豊中市 (女性)

内モンゴルに旅行に行ってからモンゴルのことをもっと知りたいと思っています。このような博物館があり、大変うれしく思います。職員の皆様、これからも頑張ってください。

◎ 9月25日 鳥取県鳥取市 (女性)

モンゴルの暮らしぶりがよく分かってとても良かったです。質素な暮らしぶりに私たち日本人はぜいたくで恵まれていると改めて感じました。和室の休憩室があるのもいいですね。

◎ 9月26日 大阪府豊能町 (女性)

記念に民族衣装を着て写真を撮りましたが、子供用のものもあれば良かったのと思いました。

◎ 10月9日 神戸市兵庫区 (女性)

たくさんの展示物をよく集められましたね。すごいです。私はモンゴルへ4回も行ったことがあります。ここも同じくらい感動できました。ゲルの中などそのままですね。

◎ 10月16日 兵庫県西宮市 (女性)

副館長さんが西宮高校に講演会に来てくださり楽しくお話を伺いました。

◎ 10月23日 兵庫県明石市 (女性)

子供が4年生でモンゴルとの交流について書くことになったのですが、モンゴルの生活と日本の生活との違いが分からなかったので来館しました。本人が当たり前だと思っている生活様式が他国と違うということに興味や関心を持ってくれれば、ここまで来て良かったと思っています。親切な対応ありがとうございました。

◎ 11月13日 愛知県半田市 (女性)

本当に楽しかった。民族衣装も自由に着られたし、絵を見たり、ちょっとした異文化体験ができて嬉しかった。愛知大学の胡弓サークルに入っているので興味深かった。

◎ 11月14日 兵庫県和田山町 (男性)

モンゴルの食文化に関する展示を見学しましたが、実際に食してみたくになりました。何か企画してください。

◎ 11月23日 兵庫県高砂市 (女性)

閉館直前ということもあってか、人がほとんどいなかったのも、ゲルの中で衣装を着たり、ゆっくり見学することができました。楽しかったです。

◎ 11月23日 大阪府三原町 (女性)

この付近を通るたびに気になって、今回初めて来ることができました。すごく良かったです。また来たいです。

- ◎ 11月29日 兵庫県青垣町 (男性)
よく調査研究されています。音の出る装置があれば、もっと楽しいのではないですか。
- ◎ 12月6日 広島県向島町 (男性)
道路端の案内板が小さすぎるので分かりにくい。せっかくこれだけの資料を沢山集めているのだから。もう少しPRして観光バスを止めるようにしたらと思います。
- ◎ 12月11日 神戸市西区 (女性)
ゲルは夏と冬と風の通し方が違うように聞いていましたので、「床を上げる」とはどういう風にするものなのか見たかった。モンゴルでは口琴を使った音楽を聞くのに、展示ではなかったの、今後こんなものも展示してほしいです。
- ◎ 12月27日 広島県福山市 (女性)
ゲルの中に鏡が置いてあると衣装を着けたとき、うれしい。モンゴルに行きたくなった。ゲルは男女別と聞いたことがあります、どうなのでしょう。男女で旅行に行ったときゲルで別々なのは嫌だ。
- ◎ 1月10日 兵庫県朝来町 (男性)
大変良かったです。宣伝が行き届いていないようなので、近くにいながら来て良かったです。
- ◎ 1月10日 京都府舞鶴市 (男性)
但東町がモンゴルとどのような関係があって、このような博物館が設けられたのか知りませんでした。モンゴルは是非一度行ってみたいところなので関心がありました。参考になりました。
- ◎ 1月16日 不明 (女性)
国立民族学博物館へよく行き、一日中館内で遊ぶことがあります。そこと似た展示方法で、触れてもよいもの、体験できるものがあり、大人の遊び場でもあると思います (子供だけに利用させるのではなく)。図書コーナーに興味ひく遺跡関係のものがあり、それも良かった。
- ◎ 1月29日 神戸市東灘区 (男性)
但東に知人もおり、シルク温泉には何回も来ていますが、いい博物館だと思います。
- ◎ 1月30日 兵庫県宝塚市 (女性)
もう3年前から行ってみたいと思いつつ、その機会がなくやっと今回実現しとても嬉しく思っています。モンゴルにとってもあこがれていつかは本当に旅してみたいと思っているのですがなかなかです。モンゴルの衣装を身につけてゲルに座らせていただき、チョットその気分を味わえて本当に満足しました。

- ◎ 2月3日 岡山県岡山市 (女性)
手で触って見ることが良かった。素晴らしさに感動し、モンゴルへ行ってみたい気になりました。
- ◎ 2月5日 兵庫県川西市 (女性)
体験コーナーがあり手で触れることができ、他館にない試みをうれしく思いました。楽器をたたいたり、写真を撮ったりしました。
- ◎ 2月11日 京都府綾部市 (女性)
モンゴルに行くチャンスを失ったので、ここでモンゴルに行ったつもりになっています。2~3度来るので少しは理解できるようになり楽しみが増えてきました。主人のみがこの夏一人旅で多くの写真を撮って来ましたが・・・。
- ◎ 2月12日 京都府舞鶴市 (男性)
モンゴルの音楽事情が分かるものも展示・演奏などすれば良いと思う。三年前に聞いたモンゴル歌舞団の印象が強烈で、今でもホームーのCDをよく聞いています。一度モンゴルを訪ねようと思います。星を見るために・・・。
- ◎ 3月10日 大阪市東淀川区 (男性)
近隣の国にもかかわらず、あまりにも私自身無知なところが多く、大変勉強になりました。今回は家族とは別ですので、次には是非とも家内や娘、息子にも勉強させてやりたいです。
- ◎ 3月12日 京都市中京区 (男性)
私の子供の保育園でモンゴル人がいて、いろんな歴史を聞かせて、本当に素晴らしかったんです。本当のモンゴルの方へ行ってみたいと思っています。モンゴルの人はとっても親切で付き合いやすく良かったです。
- ◎ 3月12日 東京都目黒区 (男性)
教科書で触れ、幾らかは知っていたが再確認させられた。興味深い題材でした。
- ◎ 3月17日 京都府峰山町 (女性)
民族衣装の着用があり良かったのですが、写真用背景に草原などがあればと思いました。
- ◎ 3月20日 兵庫県柏原町 (女性)
今回は夜久野から来ましたが、峠を越えてくるために方向が分からなくなりました。もう少し案内を大きな交差点手前で分かりやすくして頂ければ迷わずに来れたと思います。
- ◎ 3月26日 神戸市須磨区 (女性)
飾りや道具、いったいどういうふうにして作ったのか、道具そのものの作られた様子が知りたいと思った。くるぶしのおはじきも色のついたものは、何で色をつけているのか、革のなめしかた・・・。
- ◎ 3月26日 京都府久美浜町 (女性)
子供が「スーホの白い馬」を勉強して、先生に教え

て頂いてこの博物館へ足を運ぶことができました。職員の方に学校へ来て頂いた時に見せてもらったビデオに出ていたボギーに子供が似ていたようで、子供も博物館へ行きたくて今日来て良かったです。民族服も着させてもらって写真も撮りました。ありがとうございました。

◎ 3月28日 兵庫県西宮市（男性）

民族衣装を着て写真を撮らせてもらいました。大変ユニークな発想ですばらしいと思います。記念写真として旅の思い出とします。

8. 施設概要

(1) 本館建築概要

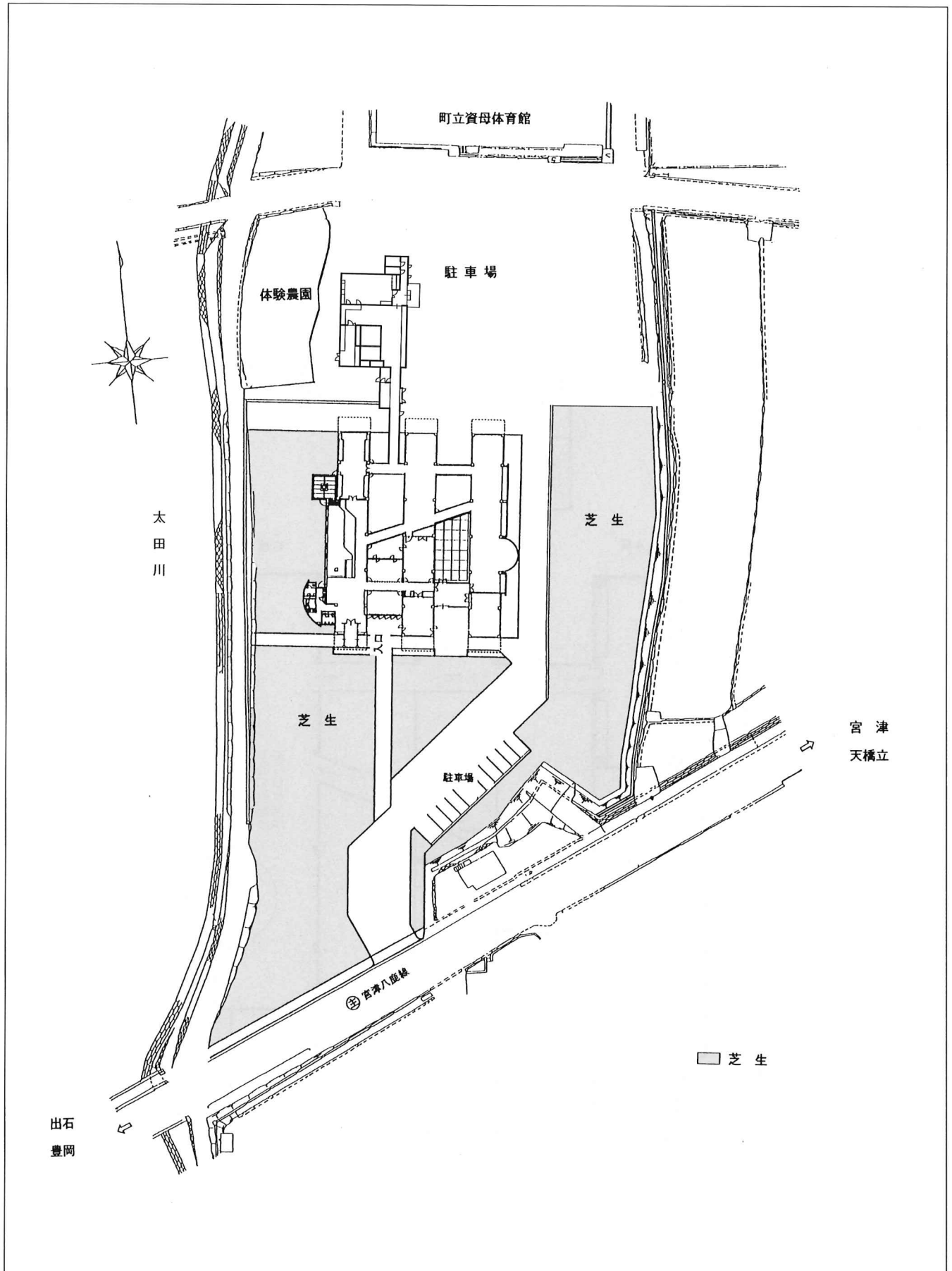
位置	兵庫県出石郡但東町中山 711
基本設計	建物 井上良一建築設計事務所 展示 株式会社さんよう
実施設計	建物 井上良一建築設計事務所 展示 株式会社さんよう
工事施工	建物 川嶋・井田・マルテン特別共同企業体 展示 株式会社さんよう
工期	建物 着工 平成7年12月14日 竣工 平成8年8月12日 展示 着工 平成8年5月7日 竣工 平成8年10月30日
敷地面積	10402.84㎡
建築面積	999.65㎡
構造概要	鉄筋コンクリート造 フッ素樹脂塗装鋼板瓦棒葺 立体トラス鉄骨（KTトラス）
各室面積	玄関ホール・たんとうの森 211.6㎡、国際理解学習室 56.5㎡、荷解室 33.3㎡、事務室 33.3㎡、館長の応接室 28.0㎡、準備室 48.2㎡ 展示室「アジアの歴史」 75.7㎡ 展示室「モンゴル草原の暮らしと文化」 206.8㎡ 展示室「チベット仏教」 37.7㎡、企画展示室 74.4㎡ シルクロード（回廊）1 13.3㎡、シルクロード（回廊）2 13.3㎡ シルクロード（回廊）3 12.6㎡、シルクロード（回廊）4 12.6㎡
建物規模	平屋建て 東西 41.8 m 南北 42.5 m 地上高 9.0 m
仕上げ	〈外装〉 復層吹付

〈内装〉床	: モルタル下地タイルカーペット貼
壁	: 山本窯業化学テラックス、石膏ボード、化粧合板
天井	: 杉小幅板、岩綿吸音板貼り

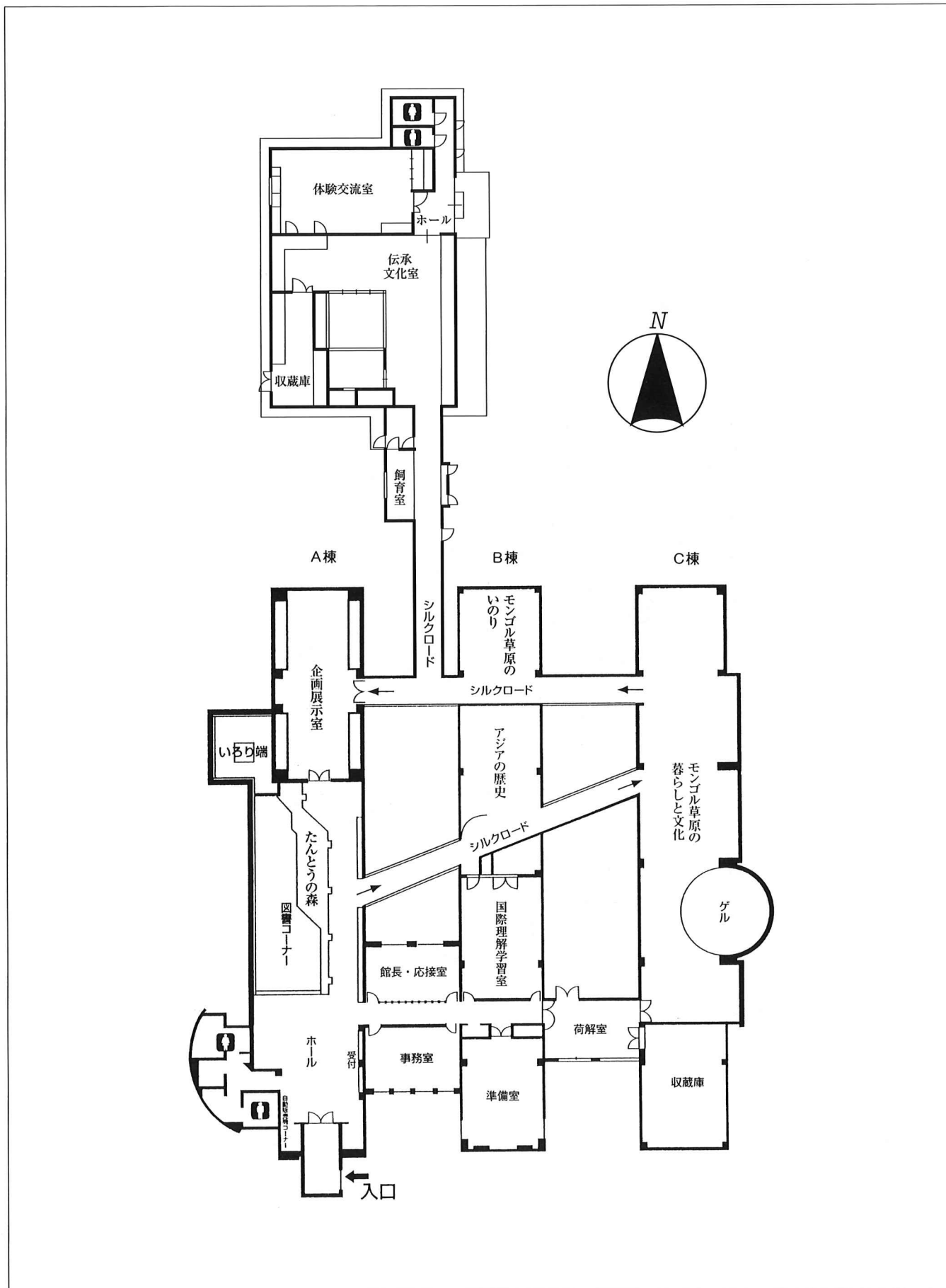
(2) 伝承館建築概要

位置	兵庫県出石郡但東町中山 711
基本設計	建物・展示 井上良一建築設計事務所
実施設計	建物・展示 井上良一建築設計事務所
工事施工	建物 株式会社マルテン 展示 株式会社ナギサ建築工芸
工期	建物・展示 着工 平成11年9月14日 竣工 平成12年3月29日
建築面積	317.57㎡
構造概要	一部鉄筋コンクリート造 木造瓦葺
各室面積	体験交流室 62.6㎡、展示室「但東の暮らしと文化」 112.5㎡ シルクロード（回廊）5 36.4㎡、収蔵庫 27.2㎡
建物規模	平屋建て 東西 12.80 m 南北 21.17 m 地上高 7.05 m
仕上げ	〈外装〉 押出成形セメント板 〈内装〉床 : モルタル下地タイルカーペット貼 壁 : ビニルクロス貼 一部杉板張 天井: 化粧PB張 一部杉板張

(3) 配置図



(4) 平面図



9. 利用案内 (平成 11 年度)

開館時間 9時30分から17時まで (入館は16時30分まで) 8月15日から17日は20時まで延長

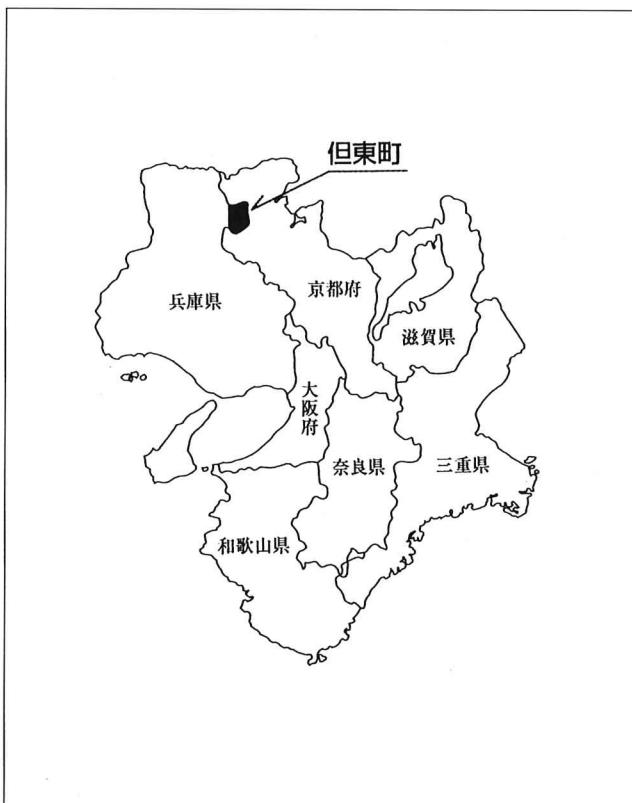
休館日 水曜日 (5月5日、9月15日は開館)
年末年始 (12月28日～1月3日)
展示替え及び燻蒸による臨時休館

観覧料 一般 500円 (450円)
高校・大学生 300円 (250円)
小学・中学生 200円 (150円)

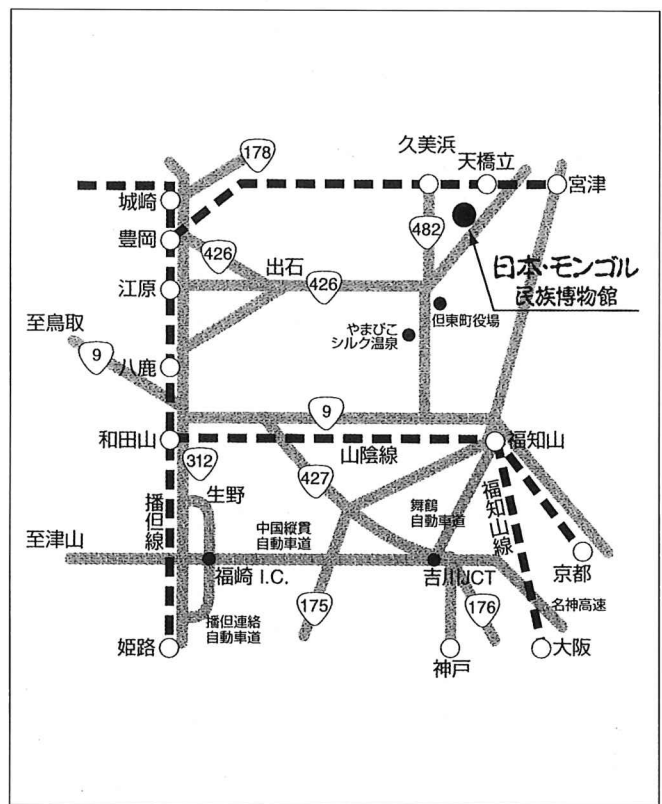
※ カッコ内は 20 名以上の団体の場合

- 観覧料の減額
- 但馬ファンクラブ (一律 100 円の減額)
 - J A F 協定 (一律 50 円の減額)
 - 65 歳以上のかたは観覧料の半額
 - 身体障害者 (介助者を含む) のかたは観覧料の半額
 - 兵庫県内の小学・中学生はココロンカードの提示により無料
 - 兵庫県内の小学・中学生を引率する教員は無料
 - 但東町民はすべて無料

10. 交通案内



但東町位置図



アクセス・マップ

あとがき

■ 近年、情報はどこにいてもどんな地方においても共有できるようになり、地方間における意識の差異がなくなってきた。これだけ情報があって機能的に暮らせる環境が整備されると、普通であればより先進的な新しいものを選択していくことになる。そして地域の文化はどんどん忘れ去られてしまう運命にある。土地そのものの文化は明確な意思をもっていないと、今の時代はなかなか伝えにくい。今後、地域文化を保存していくために、明確な意思と努力が求められていく時代になっていくのだろう。文化まで全国で横並びする必要はないと思うが、情報の共有化によってどんどん地方の個性ある文化が衰退してきているように感じる。日本文化全体が薄っぺらなものになっているからこそ、厚みのある地域文化を育てていく必要がある。

さて、当館もハード面の整備がようやく落ち着き、次段階へのステップを歩み始めた。次はハードから、ハートを大切に作る時期でもある。平成11年度は残念ながら入館者も減少し、創業の時代から「守勢・守成」の時代に突入した感を覚える。平成12年度は新しい21世紀を迎えるための期間として、博物館運営においても従来型の発想を大きく転換する時期に来ているように思う。また、文化はカルチャーともいわれ、語源をさかのぼれば「耕す」に行き着き、大地に鍬を入れて作物を得ることである。辞書を開くと「人間生活を高めていく上で、新しいものを生み出していくもの」とあった。何やら難しい「文化」の響きであるが、図書館や博物館に通うことも、町民センターで人形劇を観賞するのも、郷土について学ぶことも、絵をかくことも、みんな文化に接することである。それによって心豊かになることが文化だという。背を向けずに参加することが文化を育てる第一歩なのかも……。

(金津匡伸)

■ 最近、来館者の方を案内する機会がとて減った。減ったというよりは自分から減らしているといったほうが正解かもしれない。「忙しい」「言われなからいいや」などと理由を付けている自分に最近気が付いた。博物館が開館して三年半、この間、私のしてきたことは一体なんだろう。中途半端な仕事と同僚へ迷惑をかけてきただけのような気がする。せめて一つは何かをやり遂げたい。ということで、平成12年度目標は、

①来館者の案内を増やす、②何事も最後までを中心に取り組みたい。30歳を超えた人間の立てるような目標ではないが、私にはこれが一番大切なような気がする。

(大岸勝也)

■ 平成11年度に「伝承文化体験交流館」を新設することで博物館に勤めることになりました。あれこれ思いながら、早くも一年が過ぎてしまいました。お陰様で、本年4月、待望の伝承館をオープンすることが出来ました。これひとえに、多くの皆様がたのお力添えの賜ものであり、心から有難いことであると思っております。先日、町内のある長老の方が伝承館を見に来られました。お帰りのときに「あの火縄銃は、私の家にあったものです。30年程前に寄付しましたが、もう長い年月が経っているので無くなっていると思っていました。ところが、今あのようにきちんと展示されているのを見て安心しました。ほんとに嬉しかったです……」と、述懐するように語ってくださいました。私も、長老の口からポツリポツリと出る言葉を素直な気持ちで、嬉しく受け止めながら聞き入っていました。同時に、伝承遺産を保存する館の重要性をあらためて認識した次第です。

さて、私は平成12年度内に旧民俗資料館の後片付けをする仕事が残っています。これを済ませないと私の役目は終わらない。旧民俗資料館は、古い校舎を利用して30余年間町内の民俗資料を展示してきました。価値ある資料は現博物館に収蔵しましたが、残された資料のほとんどは紫外線に変色したり、虫ばまれていたり、手で触るとバラバラに崩れたりする。寄贈していただいた方々の心を思うと胸が痛むが、町文化財調査委員会と連絡を取りながら、思い切って整理していかねばと考えています。

(堀 勝彦)

■ 『源氏物語』の末摘花のような女性になりたいと思った学生時代。あれから多くの年が過ぎ、遠い日のこととなったのに、今だその思いは大きく毎日が過ぎていく。ただ、ぼんやりとしていては到底成り得ないことなのに、なかなか先へ進まない。ところで、電話で対応している数分間、或いは受付でやり取りしているわずか数秒の間にも、その人の人なりを感じることもある。また、「話をしている面白いなあ、また話したいなあ」と思える人もあまり多くない。が、どちらも内のこと。やはり内面を磨かねばと思う。今年、新しい

スタッフを迎え、瞬く間に一年が過ぎた。20代から70代までスタッフの年齢幅は広く、そのほぼ中間にいる私。どちらからも色々と吸収し内面を磨かねば。

(渡辺律子)

■ 春に大学を卒業したばかりで、社会のことも、ましてやモンゴルのこともほとんど知らなかった私。館長・副館長はじめ、職員の皆さんに多大な迷惑をかけたまま、一年が過ぎてしまった。毎朝1時間かけてする清掃、深夜まで続いた企画展の展示替や、伝承館の開館準備、サラさん・ウタさんの二人のモンゴル人との出会い。例を挙げれば本当にキリが無いほどの驚きや発見、戸惑いや失敗の毎日だった。モンゴル博物館に勤務するようになって驚いたことの一つは、モンゴルに

関心を持っている方が多いということ。私はここに勤めるまではモンゴルの場所がなんとか分かる程度で、その他に知っていることといえば『スーホの白い馬』くらい。恥ずかしながら今もその知識量はさほど変わっていない。受付に座っていると、来館者の方に色々な質問をぶつけられ、いつもしどろもどろになり、助けを求めてしまう。平成12年度はもっともっとモンゴルや色々な事を学んで、館内を案内したり、来館者の方もっとコミュニケーションを取れるようになるのが、私の小さな目標だ。これからも職員の皆さんはじめ、色々な方に迷惑をかけながら毎日が過ぎていくことと思う。精一杯頑張っていきますので、よろしくお願い致します。

(浅沼千裕)



日本・モンゴル民族博物館年報第3号

Japan Mongolia Folk Museum

平成12年4月3日発行

〒668-0345 出石郡但東町中山711

TEL(0796)56-1000

FAX(0796)56-1022

711 Nakayama, Tanto-Town, Hyogo 668-0345 JAPAN

発行／日本・モンゴル民族博物館

印刷／嶋屋印刷

〒668-0233 出石郡出石町田結庄86

TEL 0796(52)3408 FAX 0796(52)6000